



樹齢 500 年を数える境内中央にそびえる榎の木は地域住民から神木として親しまれ、群馬県天然記念物の指定を受けている。

当日は、募集人員を大幅に上回る応募者の中から男女各 20 人が参加し、境内ツアーやクイズ大会、トークタイムで大いに盛り上がった。

渡辺住職は「ぜひ他の群馬のお寺にも紹介したい。各寺には独自の歴史と文化がある。今はスピリチュアル、パワースポットブームで、この点を前面に押し出せば、お寺は素敵な出会いの場にもなり、人も集まりやすいはず」と話す。

また「各宗派でも後継者問題に悩み、婚活の企画を催しているが、宗門色を出さず、一般や行政が主催する婚活に僧侶の息子や娘も入る形の方が取り組みやすく、参加もしやすいのではないだろうか」とも語っている。



仁叟寺は、高崎市で民間初となる避難所の認定を受けている。きっかけは東日本大震災時に、渡辺龍道副住職が檀家から預かった支援物資を福島県南相馬市の新祥寺へ届けた際、寺院の避難所では遺骨を安置することが出来、避難者と一緒に毎日祈りを捧げることで心のケアにつながることを実感。仁叟寺を避難所として開放しようとして一昨年、高崎市の防災課に相談した。

前例がなく、1 年越しでの認定となったが「行政はもちろん、署名活動を行い地域住民も一緒になって立ち上げた。企業からも大型自家発電機や簡易トイレ、災害時対応の自動販売機が寄贈されたことも大きかった。地元では全員が喜んでくれた。お寺という、せっかくいい環境があるのだから、婚活や、公的避難所の指定などに協力し、何かあった場合に飛び込める場所としてお寺があれば、町の人のためにもなり、寺院の活力を見出すことにも繋がるはず」と渡辺住職は話している。